



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内281)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No. 527
所長 本多直也
発行 平成28年 5月10日
日字 山田 恭正 教育長



対面式

『リーダーの姿・声』

撮影者 肥田中学校
今井 竜彦 先生



「エグザイル」

土岐市教育研究所長 本多 直也

タイトルの「エグザイル」はダンス&ボーカルユニットで、多数ヒット曲を生みだしている、あのグループのことです。彼らが音楽活動するにあたっては、いくつかの決まり事があるようです。例えば、怪我をするとコンサート等に影響があるとの理由でスキー、スノーボード、サーフィンは禁止、食べ物も高タンパク、低カロリーの筋肉にかわりやすいものを食する・・・

話は変わり、プロ野球の投手の中に、たとえ自分の子どもであっても、利き腕で“だっこ”しないと話をしてみえた方がいました。また、身近なところで、バスの運転を職業としている方は、勤務のある前日はお酒を一切飲まないということを聞いたことがあります。

「プロ意識」

学校の先生は「教育のプロ」と言われます。教育指導について専門的な技術をもち、絶えず研修を積みながらその指導力を向上させています。しかし、『あなたの「プロ意識」は何ですか?』と改めて問われる

と、なかなか返答しにくいものです。

そんな中で、ある美術の先生は「自分の作品制作をしないのは、美術教師でない。」と時間をみつければ作品作りをしてみえました。「1年に一題材は自分で取材をして教材を工夫している。」と自信をもって研究会で発言していた社会の先生もみえました。さらに、宴席での生の料理(刺身)に手をつけず栄養教諭の方「万が一私が食中毒になったら、市内5,000食余りの給食が出せなくなりますから・・・」とにこやかに微笑まれたことがありました。

かの坂本龍馬さんは「疲れると思案がどうしても滅入る。よう寝ると猛然と自信がわく。」と言ってみえます。仕事柄、子どもの元気さ、勢いに負けないよう睡眠不足に気をつけ、体調管理を心がけることは、エグザイルに通じる、教師の「プロ意識」と言えるのではないのでしょうか。新年度にあたり、市内先生方の「プロ教師」としての活躍を願っています。

土岐市の学校教育をリードする校長会

土岐市小中学校長会長 三輪 敏成

土岐市教育委員会を飛び越して、校長会が土岐市教育を語ることは甚だおこがましいことかもしれません。しかし、ありがたいことに、土岐市教育委員会は校長会と車の両輪となって、土岐市教育の充実と発展をめざしたいという考えを示してみえます。

そこで、土岐市小中校長会では見出しのテーマを掲げ、3つの方針と6つの重点を設定しました。

1 各校長が力を伸ばす

- ① 校長会会務の充実
- ② 研修の充実

2 各学校及び各会の教育活動を充実させる

- ③ リーダーの育成
- ④ 各会の活動の活性化

3 土岐市教育の充実・発展を図る

- ⑤ 人材育成
- ⑥ 連携

1-① 校長会において、各所、各担当からの報告等を正しく理解し、提案について十分検討し、実践に移していくことを大切にします。

1-② 校長自身が学び続けなければなりません。生き方、教育理念と学校運営、先見性など校長としてのリーダーシップに必要な力の向上を図ります。

2-③ 今後の学校教育、土岐市教育をリードする人材を、今育成しなければなりません。

ご存じのように、今後数年大量の教職員が退職し、その後を引き継ぐ教職員が非常に少ないのが現状です。30歳前の先生が学年主任になっている学校もあります。校務分掌により、全校レベルで活躍してもらうことで、力を伸ばして欲しいと願っています。

2-④ 教頭会や教務主任会、主事や主任会、市教研などの各会で、その会のミッションを理解してもらい、会務や研修の充実を図ってほしいと思います。そのことが、土岐市の次期リーダーの育成にもつながります。

3-⑤ ピンポイント的な研修会の中で、校長が学んできたことを伝えることを通して管理職の登用に寄与します。登用された先生が数年後には土岐市に戻り、土岐市教育をリードして欲しいと願いながら、期待するところです。

3-⑥ 教育は学校の中だけでは充実や発展は望めません。ましてや完結することはありません。関係諸機関や団体と連携することで、より豊かで確かな力をもった児童生徒に育てることが出来ます。校長会を通さず、直に各学校へ依頼等が入らないようにするのも校長会の役目です。

校長会も頭を使い汗を流しますが、最先端で土岐市の教育を進めてくださるのは、各校の先生方です。基と先を見誤らない目を校長会は大切にしていきます。

浅野教室の役割を理解してご活用ください

土岐市教育相談適応指導教室「浅野教室」 室長 石垣 寿子

担任として、不適応の症状を示した児童生徒に対して、どう対応したらよいかわからなくなるケースはありませんか？ 学校へ登校できない日が続き、どう働きかけたらよいか困っているケースはありませんか？

浅野教室は、平成6年度より学校外の施設として学校内ではうまく対応できない児童生徒の支援をする適応指導教室を開設しています。

教室では、あるがままに受け入れられる居場所として実感できる雰囲気を大切にします。

通所してくる児童生徒は自分のペースで学習を中心とした活動をしています。

何よりも学校とのかかわりを大事にしていきたいと考え「本人、保護者と学校の関係づくりを応援していく」「学校と連携して、学校復帰のチャンスを探っていく」ことに心がけています。

今まで通所を経験した生徒は、中学校卒業後、不登校の状況を示すことなく、明るく、元気に高校生活を送っています。卒業生について、不安な思いを持つ私たちですが、予想を覆し、生き生きと生活しているとの情報を得るたびに、何か報われた気持ちになっています。

「不登校はどの子にも起こりうる」と言われるようになってから長い年月が経ち、その間に、いくつもの施策が講じられてきましたが、改善の兆しが見えてきていないのが現状です。

今の時代は、不適応を示す児童生徒が必ず出てくるということかもしれません。

そのとき、周りからの適切な対応によって、自分自身でクリアーしていけば、その後の人生により影響を及ぼします。逆に周りの不適切な対応によって益々傷を大きくさせると、復帰までに多くの時間を費やすこととなります。

昔と違って、今は学校にスクールカウンセラーが配置されています。臨床心理士というプロが私たちの身近にいます。難しいと思われるケースについては、スクールカウンセラーから見立てをしてもらい、支援の方向を示してもらうことが可能です。

浅野教室は教育相談業務もおこなっています。特に、教職員を支援する実践を数多く生み出していきたいと考え、次のことに心がけています。

- 1 かかわりをもったケースについては、学校との情報交流に心がけ、ときには共に協議するなどしながら、役割連携に努めていきます。
- 2 かかわる親の気持ちを理解した支援に努めます。
- 3 スクールカウンセラーの見立てをもとに、担任を応援する教育相談員、適応指導員等の支援に心がけていきます。
- 4 学校外の存在であるから出来る支援に心がけていきます。(果たしていける役割として考えていることは、①情報提供 ②パイプ役 ③スーパーバイザー ④共同協議 ⑤役割分担して働きかける ⑥学校を支える)

本年度も昨年度同様に配置5年目となる市カウンセラーのより効果的な活用を探っています。先生方の活用が少しでも増えればと思っています。

また、浅野教室の果たす役割が知られていないと感じることもあります。「教職員・保護者への広報活動、啓発活動をすすめていく」ことも大きな課題だと感じています。

浅野教室の職員は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのような専門性や資格はありませんが、学校とは異なる立場から親さんと学校を繋ぎ、悩んでいる子の心にエネルギーを充電するお手伝いはできと思っています。学校に不適応を起こし苦しんでいる子が生まれた時(生まれそうな時)、よろしかったら、浅野教室に相談してみてください。何かのお手伝いができると思います。

また、浅野教室だから得られる情報があります。国・県・東濃・市の動向をつかみ、各種会議等で得た学校に必要なと思われる情報を、生徒指導主事会等で伝えていきます。さらに、情報提供できる機会が多くもてるよう、学校から信頼される浅野教室の運営に努めています。

市教研が新しい研究部会でスタートしました！

土岐市小中学校教育研究会 平成28年度 各部会の研究テーマ

部会	研究テーマ	
小 学 校 教 科 等 研	国語	一人一人の言語能力をのばす国語科授業の在り方
	社会	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～社会的事象の意味を問い続け、社会認識を深める授業を通して～
	算数	数学的な思考力・表現力を高める指導の在り方
	理科	実感を伴った理解を図る理科学習の創造
	音楽	音楽のよさを感じ、思いを豊かに表現する授業
	図工	ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育～
	家庭	よりよい生活を創り出す豊かな心と実践力の育成
	体育	仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育学習の創造
	外国語活動	外国語を通してコミュニケーション能力の素地を養う指導の在り方 サブテーマ:豊かなコミュニケーションを育む指導方法の工夫・改善
特別支援	自立と社会参加を見据えた、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の創造 ～互いのよさを認めあいつつ、生き生きと生活できる共生社会の基礎づくりを通して～	
中 学 校 教 科 等 研	国語	生きてはたらく言語能力の育成
	社会	主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習
	数学	基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、数学的な見方や考え方のよさを実感する生徒の育成
	理科	主体的な問題解決を通して、科学的な見方や考え方を養う理科指導の在り方
	音楽	「楽しさ 確かさ 美しさ」を求めて ～音楽の仕組みを探り、追求の深まりを実感できる授業～
	美術	ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育～
	保健体育	バレーボールにおける「運動／集団」学習の効果的な指導の在り方を求めて
	技術・家庭	生活での実践に生かす力の育成を目指した授業
	英語	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導
特別支援	自立と社会参加を見据えた、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の創造 ～互いのよさを認めあいつつ、生き生きと生活できる共生社会の基礎づくりを通して～	
各 種 研	養護教諭	生活改善のための問題解決能力を育てる保健教育の在り方
	事務	研修をとおして知識・経験の共有を図り、学校事務の効率化を推進する ～事務主任としてふさわしい資質を身につけよう～
	栄養	児童生徒が生涯にわたり健康な生活を送るための「食に関する指導」の推進を目指して ～学校との連携を図った取組を通して～

土岐市小中学校教育研究会 平成28年度 各部会 部会長・役員の皆さん

部会	部会長	学校名	主務者	学校名	世話役	学校名	県代議員	学校名
小 学 校 教 科 等 研 究	国語	三輪 敏成	泉小	田口 奈典	泉小	西尾 雅代	肥田小	田口 奈典 泉小
	社会	加藤 朝巳	妻木小	平林 尚子	下石小	大澤 拓也	土岐津小	道下 直矢 駄知小
	算数	杉浦 正佳	駄知小	米田由起子	土岐津小	佐々木美樹	下石小	佐々木美樹 下石小
	理科	熊崎 克朗	下石小	小倉 綾乃	肥田小	栗野 明子	駄知小	栗野 明子 駄知小
	生活							
	音楽	丸山 和彦	濃南小	今井 悦子	泉小	浅野 祐恵	泉西小	安藤 律子 土岐津小
	図工	永治 洋子	泉西小	坂田まさみ	下石小	岡 龍郎	泉小	河合 哲仁 肥田小
	家庭	石山 文香	駄知小	長谷川里美	濃南小	長谷川里美	濃南小	長谷川里美 濃南小
	体育	村上 欣子	土岐津小	石塚 文香	泉小	仙石 健太	駄知小	八木致聖子 土岐津小
	外国語活 特別支援	林 奨司	土岐津小	青木 典子	泉西小	鈴木 友浩	泉小	
	加藤 一哉	肥田小	三輪かをり	泉小	加藤 直子	駄知小	水野 浩庫 濃南小	
中 学 校 教 科 等 研 究	国語	田辺 美樹	肥田中	加藤 宏峰	濃南中	加納 玲子	泉中	松井 郁佳 土岐津中
	社会	梅村 利明	西陵中	桑原 幹	西陵中	佐々木 武	西陵中	河田 佳則 泉中
	数学	小嶋 隆弘	泉中	日置 貴大	肥田中	岩井 妙子	土岐津中	虎山 泰昌 駄知中
	理科	市岡 敬	泉中	中島 健志	駄知中	今井 竜彦	肥田中	中島 健志 駄知中
	音楽	磯貝 隆	駄知中	石原 靖子	肥田中	工藤 祐子	駄知中	工藤 祐子 駄知中
	美術	永治 洋子	泉西小	小池 智明	泉中	江崎 大三	西陵中	小池 智明 泉中
	保体	田中慎一郎	土岐津中	松田絵梨沙	泉中	笹岡 康孝	泉中	日比野清輔 濃南中
	技家	長谷川哲也	駄知中	加藤 工貴	駄知中	水野はづき	泉中	林 祥太 泉中
	英語	齋木 孝明	濃南中	宮地 正典	肥田中	長瀬久美子	泉中	宮地 正典 肥田中
	特別支援	可知 徳彦	土岐津中	西戸 義正	泉中	吉田さやか	泉中	
各 種 研	養教	熊崎 克朗	下石小	水野智恵子	土岐津中	水野智恵子	土岐津中	今井 光子 濃南小
	事務	市岡 敬	泉中	近藤久美子	西陵中	渡辺 智絵	土岐津小	近藤久美子 西陵中
	栄養	林 奨司	土岐津小	鈴木 晃子	土岐津小	千村 友記	肥田中	鈴木 晃子 土岐津小

「心にひびく言葉」

やるといいくらいのは、やらない方がよい

下石小学校 校長 熊崎 克朗

「やるといいくらいのは、やらない方がよい」これは、15年ほど前、先輩の先生から言われた言葉です。当時、やった方がよいと思ったことは、とりあえずやろうと思っていた時期だったので、そのようなことを言われたことが、なんだか腑に落ちず、この言葉が胸につかえたような感じがしていました。

教員の仕事というのは、やった方がよいことばかりで、いくらやってもきりがありません。勤務時間が過ぎてもなかなか帰れない日が続いていました。帰る頃になって、「今日はあれもできなかった。これできなかった」と、いろいろなことに取り組んだことを、やりきれなかったことに対する自分自身への言い訳にしていたようにも思います。ようやく最近になって、あの言葉は、「絶対にや

らなければならないことを見極め、確実にやりなさい」という意味だと思ようになりました。

担任であれば、子どもにつくこと、子どもを観ること、子どもと一緒に遊ぶこと、子どもの目を輝かせるような授業を行うことや、そのための教材研究や授業づくりに全力を投入することが最優先課題だと思ようになってきました。

担任ができない今となっては、担任をしている先生方に、子どもにつくことや魅力ある授業を行ってもらえるように願うばかりです。

当然、立場が変われば、やらなければならないことも変わってきます。でもまた、やるといいなあと思うことをやっちゃっている自分の甘さを反省しています。

掲 示 板 本年度もよろしくおねがいします

【教育研究所】<前列左より>

主 任 後藤 淳
所 長 本多 直也（学校教育課課長）
指導主事 廣島 由美子

<後列左より>

嘱託指導主事 安藤 篤
指導主事 塚本 修（学校教育課副主幹）
事 務 伊藤 のり子



【ALT】

<左より>

ライアン・コナー
パトリック
スワン・ウィリアム
パトリック



【浅野教室】

<左より>

室長
石垣 寿子
相談員
毛利 知美